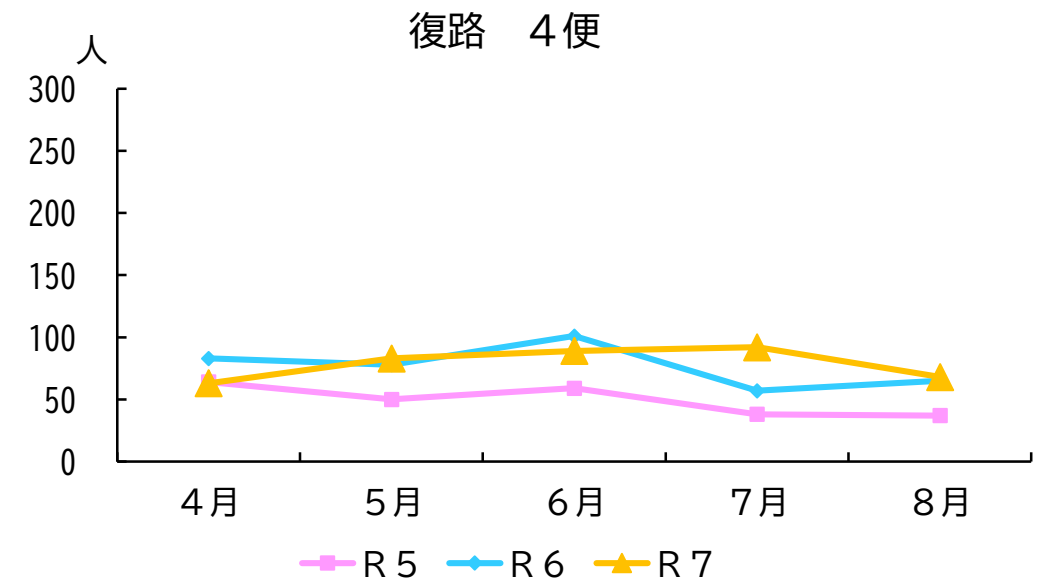
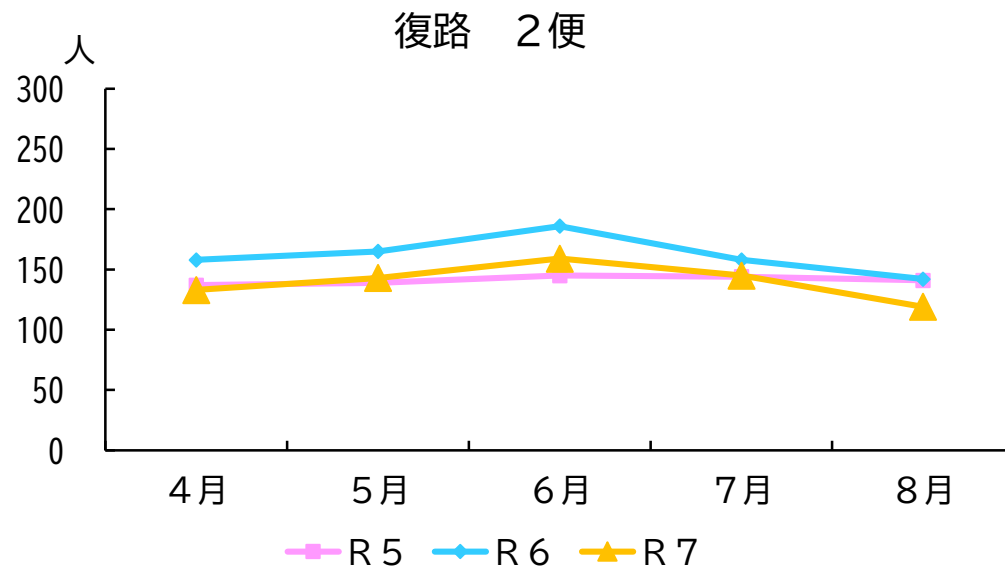
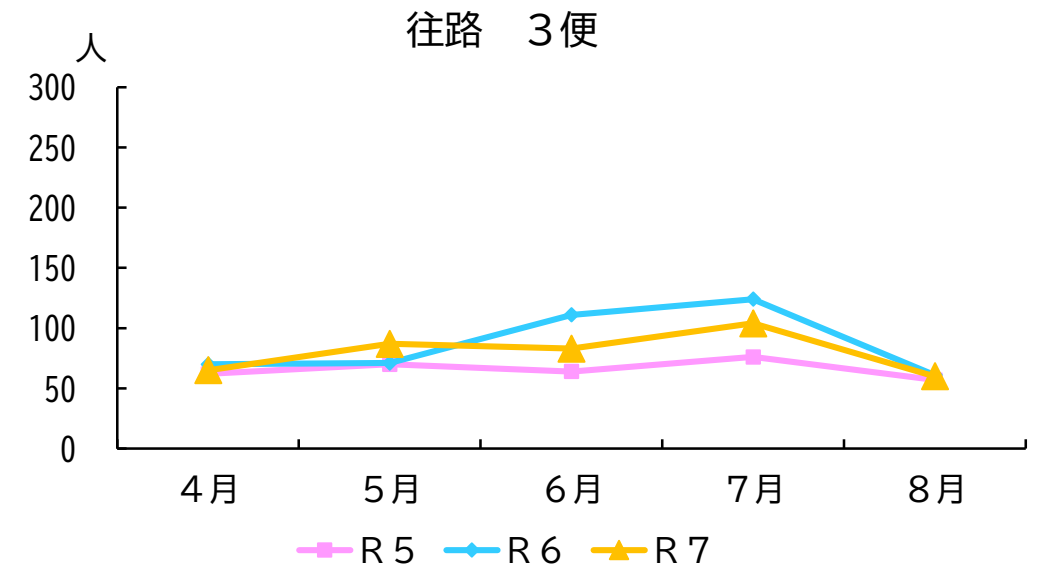
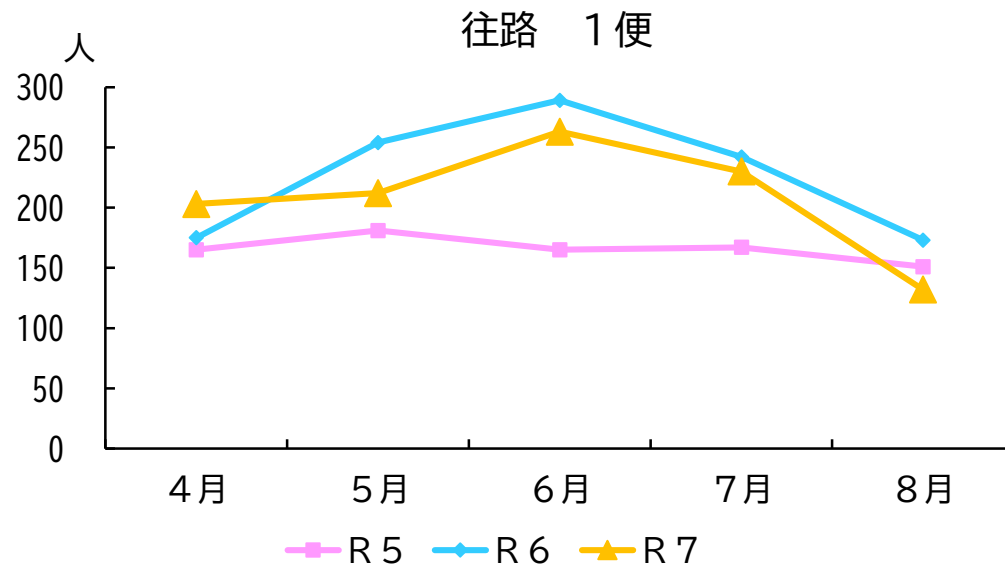


相和循環及び相和・金子循環（旧相和循環）

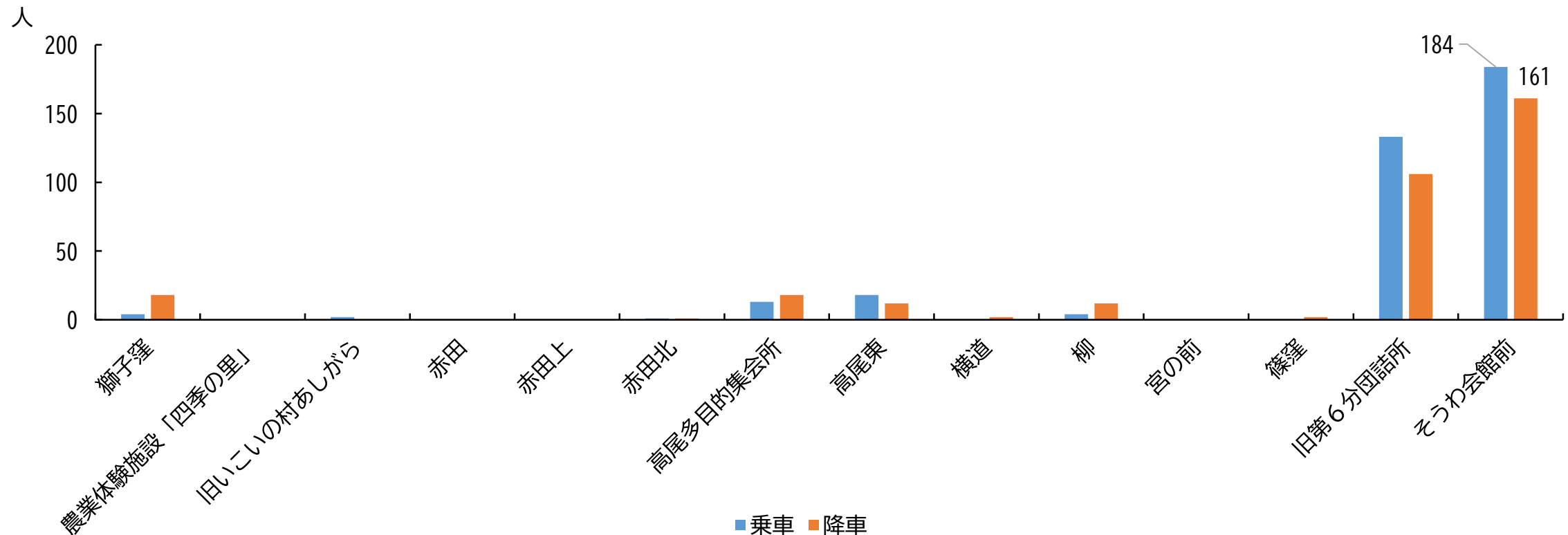
1. 相和・金子循環 利用者数の推移



- R 7 年度 5 月より運行形態を変更したが、全便を通して、利用者の大きな変化はなかった。
- 午前便と比較すると午後便（往路 3 便、復路 4 便）の利用者が少ない。

2. 相和循環

バス停ごとの利用者数

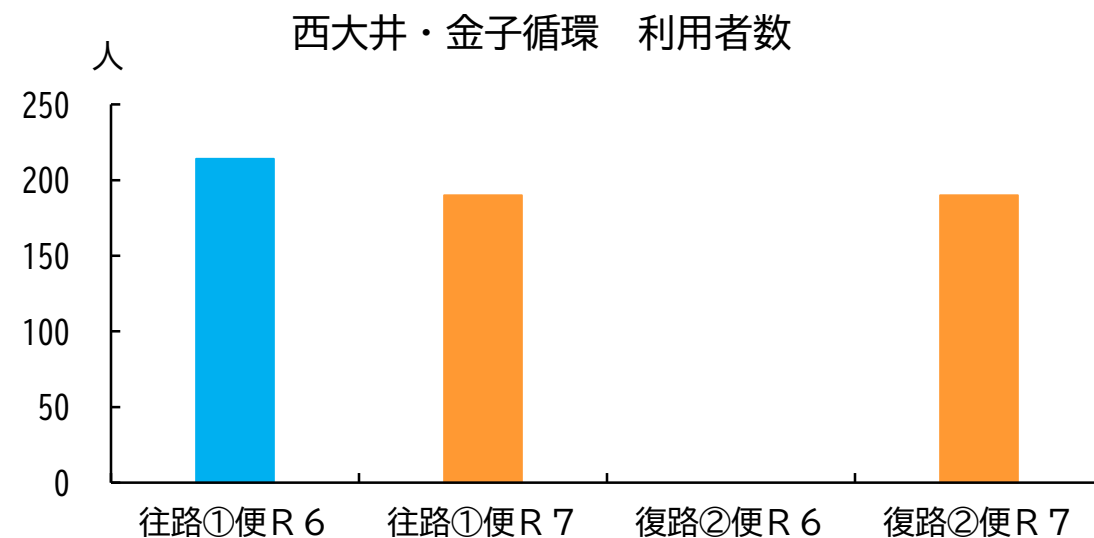
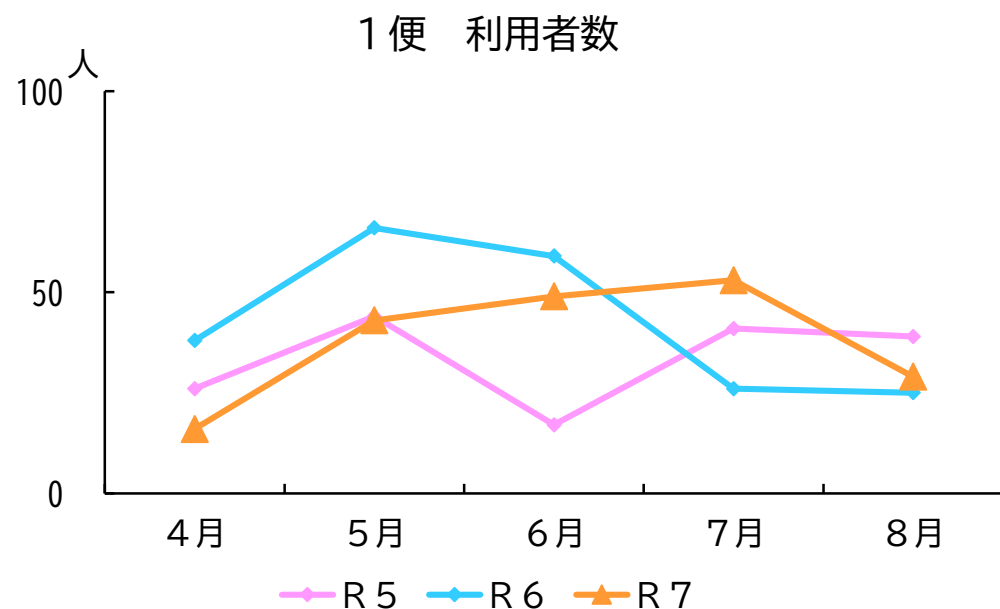


- バスへの乗り換えのため、そうわ会館での乗降が多くなっている。
- 旧第6分団詰所やそうわ会館は乗車人数が多く、その他のバス停では降車人数が多くなっている。
- 赤田地区においては、4月～8月までの利用が1人となっており、利用が少ない。

3. 今後の方針

- 利用者数の大幅な増減はなかったものの、意見交換会等より「そうわ会館」－「東庭」での乗り換えが負担となっているという意見もあった。
→乗り換え場所や乗り換えのない前回の運行体制に戻すことも視野に入れる必要がある。
- タクシー車両だと一度に乗り切れない場合や買い物後の荷物の場所が確保できないため、運行車両についての検討が必要。
- 山間地域（短距離でも勾配が大きい）のため、バス停の位置について再検討が必要。

1. 利用者数の推移

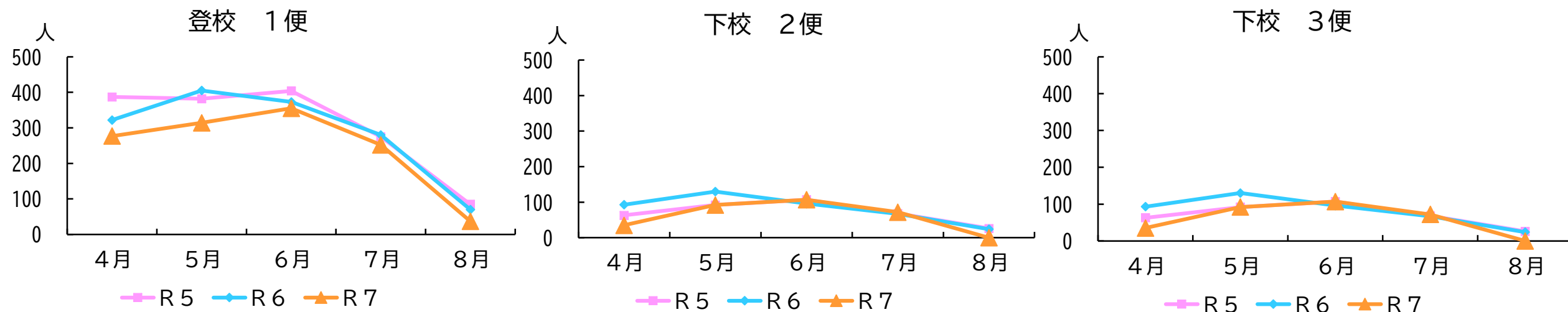


- R 7 年度 5 月より復路便を追加したことにより、往復でゆめバスの利用が可能となった。
→利用が増加傾向のため、復路があるために公共交通を使用する選択肢が増えた可能性がある。
→相和循環と異なり、往路・復路で人数に大きな違いがなく、往復でゆめバスを利用している。
- 西大井・金子循環においては、決まった利用状況はなく、年度によつての変化が大きい。

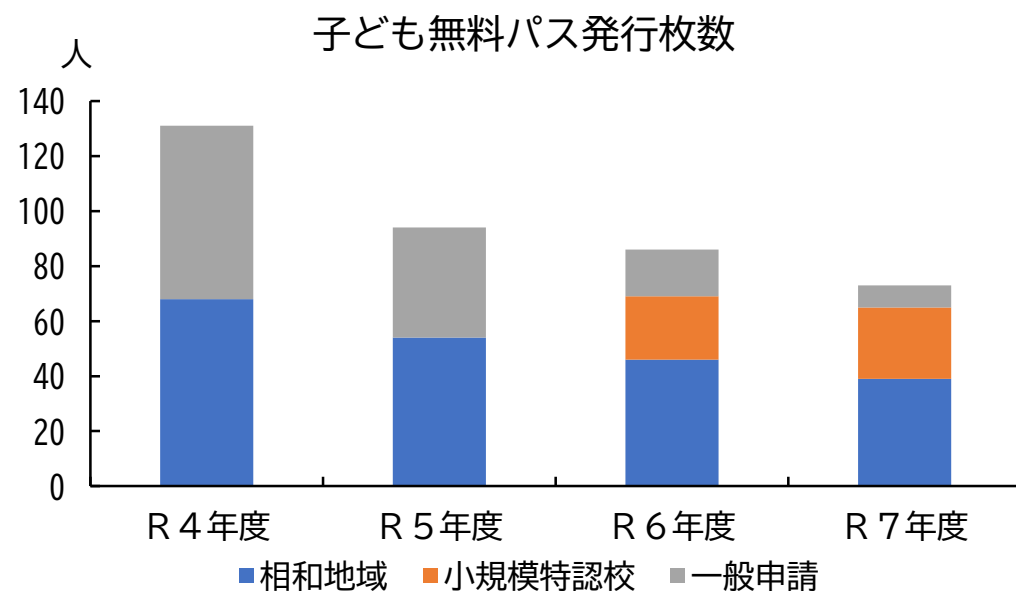
2. 今後の方針

- 意見交換会よりバス停の増設要望があつたが、道路状況により、バスの運行では増設は難しい。
→相和地区のように車両やルートについての検討が必要。
- 利用者が微増しており、復路便を設定した効果が見られる。
→今後安定的に利用の継続があれば、来年度についても同様の運行を検討する。

1. 利用者人数の推移



※R7年8月は下校便、運休。



- 子ども無料パスの発行枚数＝登校便の利用人数の減少となっている。
- 下校便は4月が新年度となるため、例年利用者が他の月と比較すると少ない。

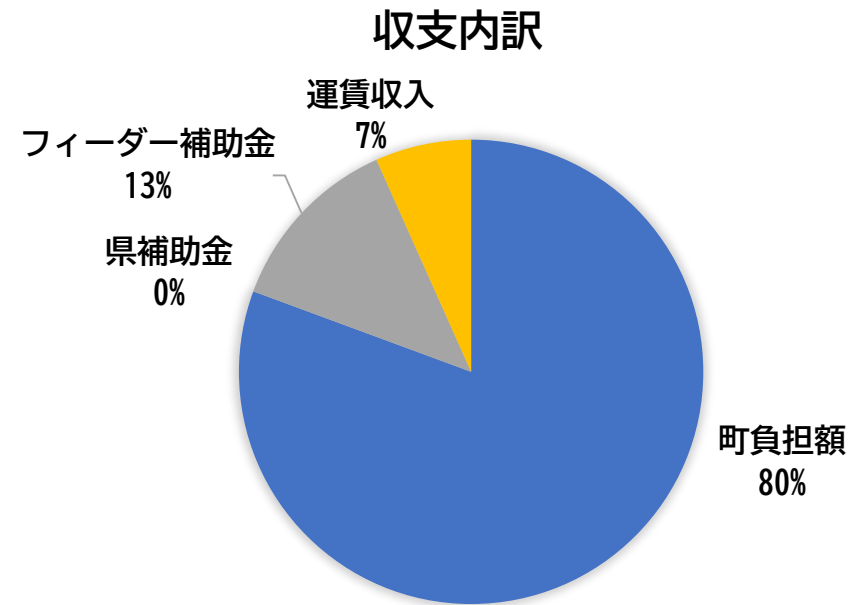
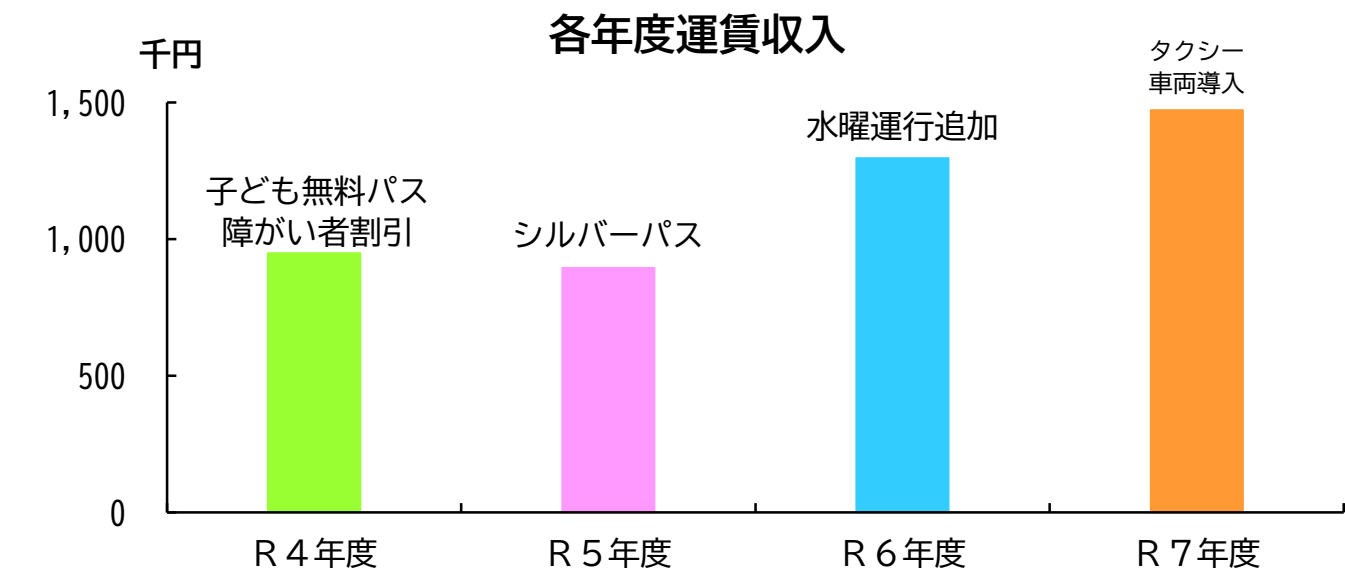
2. 今後の方針

- 利用は減少しているが、子どもの移動手段の確保のため、運行を継続する。
→車両について、バスの大きさが必要なのか今後利用人数をもとに検討していく。
- 一般申請の子ども無料パス発行枚数が激減しているため、理由を確認する。

運行経費と運賃収入

単位（千円）								
	支出(A)	収入（B）						町負担額 (A-B)
	運行経費	国補助金	県補助金	運賃収入			合計	
				IC+現金	回数券	合計		
R 4 年度	14,952	2,068	7,318	648	300	948	10,334	4,618
R 5 年度	16,478	2,494	7,031	873	22	895	10,420	6,058
R 6 年度	18,078	2,794	7,856	1,280	16	1,296	11,946	6,132
R 7 年度	22,030	2,794	0	1,434	38	1,472	4,266	17,764

※R 7年度の収入は4月～8月の実績をもとにした概算。



- R 7年度はタクシー車両とバス車両の2台体制の運行となったため、R6年度より4,000千円の増となっている。
- R 6年度までは、県の補助金も活用していたため、町の負担金は6,000千円台だった。
- しかし、R 7年度は活用できないため、比較すると約12,000千円程度の増となっている。
- 運賃収入は、R 5年度落ち込んだが、現在のペースで利用があると1,500千円程度を見込んでいる。

達成度

○大井町地域公共交通計画における達成状況の評価のため、R 8 年度の利用者数と収支率について以下の目標とした。

利用者数：一般利用者数6,000人、小中学生利用者数4,000人

収 支 率：R 8 年度までに委託料15,000千円のうち、収支率8.7%（1,305千円）とする。

		利用者数			収支率		
		目標	実績	達成度	目標※1	実績※2	達成度
R5年度	一般利用者	6,000人	5,795人	97%	8.70%	14.48%	166%
	小中学生	4,000人	6,138人	153%	—		
R6年度	一般利用者	6,000人	6,449人	107%	8.70%	12.81%	147%
	小中学生	4,000人	5,128人	128%	—		
R7年度	一般利用者	6,000人	6,778人	113%	8.70%	9.90%	114%
	小中学生	4,000人	4,128人	103%	—		

※1 計画では収支率の目標を一般利用者のみで算出しているため、小中学生を「—」で表記。

※2 R 5・6・7年度の収支率の実績は、利用人数ベースでの実績。

【収支率実績の算出方法】

R 5 年度：（11,933人×200円）÷16,477,800円×100＝14.48%

R 6 年度：（11,577人×200円）÷18,078,000円×100＝12.81%

R 7 年度：（10,906人×200円）÷22,029,360円×100＝ 9.90%

- 子どもの利用者が年間1,000人程度減少しており、今年度も現在のペースでは達成見込みだが、来年度以降目標設定について検討する必要がある。
- 一般利用者は増加傾向のため、利用が継続するように定期的に利用者の意見を聴取する。
- R 7 年度は経費が増加しているが、利用人数が減少する見込みのため、収支率も現状見込み。